

# ハロー フレンズ

ファイセック

# FICEC

発行

ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2009年 10月号 (隔月刊) 第105号

## ゆかたと着物ってどう違うの？ 日本語教室で「ゆかたで七夕」を開催

「ゆかたと着物ってどう違うのですか？」

8月6日(木)ふじみ野市の七夕祭りに合わせ実施したセンターの日本を理解するイベント「ゆかたで七夕を」の1コマです。

今年日本語能力試験2級に挑戦する受講生の一人からの質問です。ウン、一瞬の戸惑い。ここでくじけては日本文化の伝播者としての権威と知識が惨めに崩壊する。

「ゆかたは着物の一種で今でいう普段着です。もとはと言えば昔、貴族達が蒸し風呂に入る時やけどをしないように着ていたものが、

後に湯あがりに着るようになり、今の普段着になったというわけです」

昨年仕入れた知識が実を結びました。この日、日本語受講生と子供クラブの子どもたちを入れて総勢25人、ゆかた目当てとソーメン目当ての生徒が入り混じり大混雑です。

ゆかたの着付けも実際は手の込んだもの。指導に当たるのはスタッフの半田栄子さん。伝統的な流派を継承する琴の先生でもあるため着物の着付けはお手のものです。小気味よく出来上がってゆくゆかた美人、仕上がり写真を収めうっとり? 母国に良いお土産ができたことでしょう。

日本文化伝承隊などと偉そうには言いませんが、センターの日本語教室は、豆まき、ひな祭り、端午の節句と機会あるごとにこうしたイベントを実行しています。会員の皆さまからのこんなイベントはどうだろうといった有難いご提案をお待ちしております。

(文：岩田仁)



# 日本工業大学情報工学科の学生が 外国籍児童のための日本語教材ソフトを制作 日本語版セサミストリートを目指して

埼玉県宮代町の日本工業大学・情報工学科の学生が、ふじみの国際交流センター(FICEC)と協力して、外国籍児童のための基礎的な日本語教材ソフトを開発・制作し、ホームページで公開している。制作したのは、同学科の片山祐樹さん、篠田祐多さん、清水景太さん、知久貴行さんの4人。3年生だった昨年1年間をかけて作り上げ、今年3月に公開したものだ。

制作の発端は、同学科の大木幹雄教授とFICECの石井ナナ工理事長が、2007年に開催された埼玉県主催のNPO・大学シンポジウム実行委員会でお会いしたことから。石井理事長らFICECのボランティアスタッフから日本語指導が必要な外国籍児童が増加して、教材が必要であることを聞いた大木教授と片山さんらの学生が、大学の授業の一環として教材のパソコンソフト作りにとりかかったものだ。

もともと、同学科は授業の中に「地域社会の情報化に貢献」を取り入れ、実践している。内容は、大学近隣の小中学校で行われているIT教育のアシスタントとして学生が授業の手伝いをすることや、NPOなどの活動支援ソフトを開発することなど。IT教育のアシスタント

活動は、同学科ができた13年前から継続的に行われており、小中学校では「パソコンに詳しい学生さんが、ていねいに児童・生徒に教えてくれる」と評価が高い。また、パソコンソフト開発の一例としては、宮代町で社会福祉活動を行っているNPOが地域住民同士による助け合い活動をしていることから、その管理支援システムを作ったことなど。

大木教授は、「システムづくりでいちばん重要なのは、相手の要求を洗い出すことです。それは自分たちだけではできない。その意味で地域社会の方々と学生が接して要求を聞きだして、それに見合う設計をして機能を決めていくという作業は、会社に入ってもいきなりはできませんから、学校で経験できるということは、学生の大きな力になると思います」と、地域社会との接触が、学生たちの実力養成に役立つと話す。

今回、FICECと協働で行った教材開発については、大木教授と学生たちがFICECでの日本語指導の現場を何度も訪問。スタッフからどんな機能が必要かといった要望の聞き取りや、子どもたちがどんな学習方法であれば興味を持つかといった点での調査を行った。

「いま日本は少子化といわれていて、外国の人たちを受け入れていかなければならない時代を迎えています。しかし、日本語教育のための『セサミストリート』のような教材がないんですね。だから、学生たちには『面白く、興味深く』学べる教材の先鞭をつけるという意味で、大きな研究テーマになると励まして取り組んでもらいました」と大木教授は話す。

3月に出来上がったパソコン教材は、フラッ



地元の小学校で授業をサポート

シュとパワーポイントというソフトを使ったもの。フラッシュは、ウェブ(ホームページ)にアニメーションや音声を組み込ませるソフトで、動きのある画面構成ができる。またパワーポイントも、作り方によって音声やアニメーション効果を取り入れることも可能。

ソフトは、子どもたちがパソコンに向かって操作する前提。ひらがなをクリックすると、その読み方が音声で聞こえてきたり、街なかの商店や学校にある品物の絵をクリックすると、その読み方が表示され、音声も聞こえてくる。クイズ形式で、表示された動物や品物の絵に対応した名詞を答えるといった工夫もなされている。ソフトに使われている画面も音声も、すべて学生たちが授業時間内に自作したものだとのこと。

同学科がソフト紹介のために作成した案内パネル

大木教授は、「ソフトは学生たちが創意工夫して作ったもの。インターネットに掲載して無償配布していますので、ぜひ多くの関係者に利用してほしいと思います」と話している。

(取材・文：内藤忍)

開発協力先： NPO法人ふじみの国際交流センター

## 外国籍児童の 日本語の独習お助け教材

日本語がまったくわからない外国籍児童に  
文字(ひらがな、カタカナ)の読み方、書き順、数え方、  
日常単語などの独習を手助けします

**日本語の国際化に向けて日本語版セサミストリートを目指しています**

《特徴》

- 音声とアニメーションによって楽しみながら学習できます・
- MS Officeのパワーポイントが動くパソコンであれば使えます・
- パソコンが苦手な方でも簡単に使用できます・

制作：日本工業大学情報工学科 片山祐樹・清水景太・知久貴行・篠田祐多

ソフト掲載場所リンク：[http://www.geocities.jp/kyouiku\\_nit/index.html](http://www.geocities.jp/kyouiku_nit/index.html)

## わいわいキャンプ2009

### しっかりと小学生をサポートする中高生たち 子どもたちの成長を目の当たりにした3日間

今年度の「国際わいわいクラブ」のキャンプは、8月7日(金)から9日(日)までの2泊3日で埼玉県立名栗げんきプラザに行きました。参加者は、子どもが40名、スタッフが13名でした。

キャンプ初日、キャンプという非日常である環境や、天候が不安定で突然の大雨などに見舞われたことなどが相まって、子ども達は少し落ち着きがありませんでした。それが最も表れたのが1日目の夜に行った野外炊飯です。カレー用の野菜を切ったり、ピザの生地をこねたり一生懸命がんばっている子ども達がいる中で、スタッフの目を盗んで遊んでしまう子や片付けの時間になっても協力しない子が多くいました。そういった子ども達もキャンプ活動を通して、それぞれのバンガローにいる高学年の子ども達が自分から進んでリーダーシップを発揮し、低学年の子ども達もそれに続くようにして積極的に活動に参加できるようになったことが、この3日間の一番の成果だと思います。

また今年度は、高校生スタッフが1名、ジュニア(中学生)リーダーが4名参加してくれました。彼・彼女達は、小学生の頃からわいわいクラブに参加し、卒業してからもスタッフとして活動を支えてくれています。今回のキャンプでも、バンガローの中で子ども達の

活動の準備や就寝準備などを手伝ったり、活動においても野外炊飯やクラフトで作り方を教えてあげたり、時には裏方となって野外炊飯の後片付けやキャンプファイヤーの準備をしたりとスタッフ以上の活躍を見せてくれました。そんな高校生スタッフやジュニアリーダーの活躍は、小学生の子ども達の目にとってもカッコいい姿として映ったのだと思います。活動中や帰りのバスで「ジュニアリーダーってどうやったらなれるの?」「私も(僕も)ジュニアリーダーになりたいな」と目を輝かせながら話す子ども達の姿がたくさん見られました。

大人である私達には伝えられない姿勢や気持ち、それを伝えることができる高校生や中学生のリーダー達は、わいわいクラブにとってなくてはならない存在であることを再実感した3日間でした。(文:猪野塚容子)



## 米国・UPS 基金からの献金を活用して 「子ども学習広場」で南蔵王キャンプを実施 自然豊かな中で楽しく野外体験

子ども学習広場は、米国のUPS基金（財団）の献金を活用し、日本語を母語としない子ども達のためにサマーキャンプを行いました。小学3年生から高校1年生までの子ども16名、リーダー役の大学生5名、それにスタッフ7名の総勢28名が、指導者の沼田さん（センター理事）の指導の下に、自然豊かな南蔵王協働学舎フィールドで集団自活生活と楽しい野外活動を通じて交流体験する8月24日から28日まで4泊5日の南蔵王採光キャンプに参加しました。

キャンプは指導者とリーダーとの密接な連携で運営されました。リーダーと子ども達は3班の生活班と女子だけの1班を加えた4班のテント班に編成され、生活班は夕朝食3食の食事は1日ずつ担当しました。

多彩な献立から指定されたメニューに従い用意された食材を用いてみんなで作る食事はキャンプの最大の仕事です。豪華な夕食準備、

朝食・弁当準備は担当の子ども達も結構楽しそう。配膳・後片付けもやり始めると熱心に働きました。

キャンプの楽しみはやっぱりアクティビティ。25日は小学生が小鳥ハウスと国有林の森林浴散策、中高校生は賚の河原で温泉を作って入ろう。26日は七ヶ宿ダムでカヌーを組み立て乗り出せダム湖、女の子はゴムボート乗り。27日午前は弥治郎こけし館でこけし描彩、午後は釣竿を作って魚釣り、夜はバーベキューとキャンプファイア。28日は白石城見学と、充実した5日間でした。

キャンプ後の子ども達が素直にありがとうと言える様になったのは最大の収穫でした。

なお、最後にこのキャンプを支援していただいた三芳町まちづくりネット「教育文化グループ」の皆さま、ボランティアとして参加してくださった大学生及びスタッフの方々に深く感謝いたします。（文：荒田光男）



### 在留資格のない状態「オーバーステイ」 しかし、人道的対応は必要ではないのか

藤林 美穂

4月号に「在留特別許可」のことを書いた際、娘を残して本国に帰国せざるを得なかったカルデロンさん夫妻のことにふれました。カルデロン一家は全員がフィリピン国籍で、オーバーステイでした。

オーバーステイとはどんな状態なのでしょう？ 外国人が日本に入国を認められた場合、日本での活動内容に合わせて「在留資格(俗にいう「ビザ」)」が法務省から与えられます。その在留資格には1年ないし3年の「在留期限」がついています。たとえば今日、日本に入国して「日本人の配偶者等・1年」という在留資格を与えられた人は、1年後の今日までに入国管理局に行って「この先も日本にいたいので、在留資格を更新してください」という手続きをしなければなりません。

「更新してください」と言っても自動的にすんなり更新されるわけではなく、1年たったその時点で本当に「日本人の配偶者」という状態が続いているのかどうか、その人の状況が厳しくチェックされます。もしその間に離婚していた、というようなことになれば、実態は「配偶者」ではないので、「日本人の配偶者等」の在留資格を更新することはできません。更新ができない場合、他の在留資格(たとえば「定住者」など)に変更して滞在を続ける、という可能性もありますが、この場合も変更理由が事実に沿っているかどうか問われます。

更新も変更もできずに在留期限を超えてしまった状態が「オーバーステイ」です。また、カルデロン一家のように、オーバーステイの両親の間に生まれた子どもは、生まれながらにしてオーバーステイとなってしまいます。いったんオーバーステイになってしまうと、再び在留資格を得るのは容易なことではあり

ません。

ところで、先の国会で入国管理法の改定が決まりましたが、その結果3年以内に現行の「外国人登録」は、在留資格のある人のみが登録できる方式に変わる予定です。そうすると、オーバーステイの人は行政のサービスは受けられなくなります。

この改定に対し、外国人支援をしている団体の間では疑問や危惧の声が上がっています。オーバーステイの人に対する、最低限の人道的対応(重病やけが、出産、子どもの教育)など、これまで市区町村がそれぞれ独自に行ってきたやり方は、外国人登録によってその人が地域住民であることが確認できたからこそやれた、という側面があります。また一方で、オーバーステイの人びとが外国人登録できず、今よりもさらに「見えない存在」になってしまったら、たとえば新型インフルエンザなど伝染性の病気が流行した場合、あるいは大地震など大規模な災害が起きた場合、社会全体としてどのように対応していくのか、という問題もあるのです。改定入管法の行方を見守りたいと思います。

#### 筆者紹介

10年あまりNGOで働いた後、フィリピン人支援グループでボランティアしたり写真の勉強をしたりしつつ昨年行政書士として開業、これから外国人のビザ取得などの仕事を中心にやっていきたいと思っています。どうぞよろしく。

ライフ行政書士事務所

<http://officelife.sakura.ne.jp/>

<http://shigotonichiroku.sblo.jp/>

センターの日常活動内容を検討する定例スタッフ会議の要約です。

## 2009年8月4日スタッフ会議

出席者：10人

- [1] 「チャレンジディスカバー・ワールド」報告
  - ・センターで勉強をしている子どもたちも参加。いつもと違う楽しそうな顔が見えた。
  - ・プログラムどおりの内容が実施できなかった。講師との事前協議が必要。
  - ・インターンシップの学生がよく働いた。
- [2] 夏休み子どもクラブの状況
  - ・毎回10人から15人の子どもたちが勉強している。
  - ・大学生や若いボランティアがスタッフとして協力している。
- [3] 日本語教室の状況と「七夕まつり」8 / 6(木) 11:30
  - ・日本語教室と夏休み子どもクラブが重なる木曜日の午前中は騒がしく、通常の日本語の勉強ができない。子どもクラブと時間をずらして実施できないか。
  - ・「七夕まつり」の浴衣はたくさん準備できる。着付け3人。そうめんとスイカを用意。
- [4] 大井社協の歳末福祉事業企画案
  - ・日本語ボランティア講座(10回位)
  - ・日本人が学ぶ外国料理や外国語教室を組み入れる。
  - ・初歩的な日本語ボランティア講座なのか、ボランティアのレベルアップの講座なのか、参加者が日本語指導に意欲があるかなどによって講座内容が変わる。
  - ・8/3～9/4までに企画を提出、10月～3月実施

- [5] UPS基金「教育キャンプ」情報 8月24日～28日(4泊5日)
  - ・7/30参加者を募集し、現在15名の応募、8/5参加者の確定。
  - ・子どものアレルギーや車酔い対策必要。
  - ・現地から具体的なスケジュールが届いた。(小学生と中学生は別の活動内容となっている)
- [6] 理事会報告とスタッフの協力
  - ・今後理事会がすべての事業を把握し組織的に機能するために、理事会へ定期的に各活動の状況を報告します。
  - ・スタッフ全員が協力してセンターのシステム作りを進めていきたい。
  - ・ルール作りなど皆さんの意見を聞かせてほしい。
  - ・ゴミの出し方について ごみバケツの購入を検討してほしい。
  - ・個人情報の保管、処分について シュレッダーの購入を検討してほしい。

## 2009年9月1日スタッフ会議録

出席者：11人

- [1] UPS基金「教育キャンプ」報告
  - ・参加者28名 子ども16名(小学生7名、中学生8名、高校生1名)、大学生5名、スタッフ7名。
  - ・内容：温泉を作ろう・ゴムボートとカヌー遊び・こけしの絵付け・釣竿つくりとにじます釣り・パーベキュー・キャンプファイア・ゲームなど。
  - ・沼田さんの指導はすばらしかった。
  - ・寄付やボランティア協力があり、予算内で実施できた。
- [2] 関沢小学校4年 国際理解9 / 16

- (水) 10:45～12:20 (10:30関沢小学校集合)
- [3] 子どもの居場所としてのセンター開放について意見交換
  - ・夏休み、子どもクラブが終わってからもセンターにいて時間をつぶす子どもが数人いた。スタッフの方針を統一してほしい。
  - ・センターは基本的にはオープンスペースである。
  - ・子どもは事情がある場合は別として原則、親同伴とする。
  - ・プラスの面も多い。各自加入保険やセンター内部の取り決めを作り、対応していけばいいのでは。
  - ・外国人にとってセンターが信頼されている場所であるということ。その評価はよい点なので残したい。
  - ・事故などの責任問題に対応できる体制であるか。
  - ・スタッフ会議としての意見をまとめておく必要がある。
- [4] 第10回入間東部地区合同防災訓練報告
  - ・8月30日(9時～正午)、三芳町立運動公園
  - ・広報車による英語・中国語・韓国語の災害広報に参加した。
- [5] 新型インフルエンザが流行しています。
  - ・利用者が多いので、手洗い、消毒、うがい、マスクなど十分気をつけましょう。外国の方たちにも再度注意を促してください。

## お知らせ

## 認定NPO法人の申請断念について

当センターは、1997年4月に任意団体として活動を開始し、1999年10月にNPO法人として組織、そして2003年10月には国税庁長官より認定特定非営利活動法人として認定を受けるなど、順調に活動を続けてまいりました。しかし、この間、活動の幅が大きく広がってきたものの、すべての活動内容に対して理事会の目が行き届かず、2008年度決算において、監事から「理事会が法人全体の事業内容を把握し、法人としての意思決定を行うという組織体制の確立」を求められました。当センターは、すべての理事・スタッフが非専従のボランティアで活動しており、これからもその事情は変わりません。そうした体制で、今後も活動を継続していくためには、監事の指摘

どおり、「まず組織体制の確立」に着手することにいたしました。そのために、2009年10月末日に期限を迎える国税庁認定の申請については今回断念をし、活動の体制が整った後に改めて申請を行うかどうかを考えることにいたしました。

今後、寄付をいただく皆さまにはご迷惑をおかけすることになりますが、当センターがより確実な活動を続けるために必要なこととご理解をいただき、これまでどおりのご支援、ご指導をお願いいたします。

2009年10月

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター  
理事長 石井ナナエ

センターの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
 口座名：ふじみの国際交流センター

**ご寄付をいただいた方々**

ご支援ありがとうございます

2008年4月～（50音順・敬称略）  
 (株)オムテック 尾高昇 太田原裕 小原  
 富明 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘  
 金子康子 国際ソロプチミスト埼玉 後  
 藤泰博 駒形一夫 斉藤彩子 宍戸フミ  
 エ 菅山修二 鈴木譲二 立麻医院 曹  
 圻 寺村仁 中嶋恵津子 西山正浩 萩  
 原千代子 東入間地区遊技業防犯協力  
 会 (株)マイカル大井サティ 馮雪蘭 百  
 瀬滉 (有)矢野住研 ワン・シーウェン

**たくさんのご寄付に御礼申し上げます**

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年以上になります。その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もお支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター（FICEC）理事長 石井ナナエ

**ふじみの国際交流センター（FICEC）のスクール、クラブ**

<p><b>日本語教室</b>                      「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。                      毎週木曜日                      午前10時～12時                      受講料：無料</p>	<p><b>国際こどもクラブ</b>                      日本語を母語としない子どもたちに日本語や勉強を教えています。                      毎週土曜日                      午前10時～12時                      受講料：無料</p>	<p><b>英語教室</b>                      毎週木曜日                      午後7時～                      受講料：月4回4000円                      第二、第四火曜日                      午後1時～3時                      受講料：月2回2000円</p>
<p><b>中国語教室</b>                      学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。                      毎週金曜日                      午前10時～12時                      冷暖房1回200～300円</p>	<p><b>韓国語教室</b>                      韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。                      毎週月曜日、水曜日                      午前10時～12時                      1回500～1000円</p>	<p><b>子ども英語教室</b>                      6歳から12歳を対象とした英語教室。                      毎週金曜日                      午後4時～5時                      受講料：1回600円</p>

**特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 Tel：049-256-4290 Fax：049-256-4291  
 生活相談専用電話：049-269-6450

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。